



## 絆

愛知工大・工 酒井忠雄

初代委員長を務められた石橋信彦先生を初め、日本はもとより世界的に著名な先生方のご尽力で1984年1月に「フローインジェクション研究会 (JAFIA)」が創設された。石橋先生の願いは機関紙 *Journal of Flow Injection Analysis (JFIA)* の命名に見られるように、国際的に活躍できる若手 FIA 研究者の育成にあったと思っている。1988 年の *Flow Analysis IV (Las Vegas)* には約 15 名が参加した。このとき FA V1991, Kumamoto の開催が決定し、参加した若手研究者達は日本での国際会議開催に感激した。FA V では石橋先生のご配慮で多くの若手研究者が実行委員に登用され、Co-chair も体験した。この二つの国際会議を契機に若手による FIA ツアーが企画され、以降は何れも 20 名近い参加がいまでも続いている。国際会議参加による効果はいたる所で現れ、1995 年 (Seattle) の ICFIA では JAFIA (本水委員長) との共催が提案され、現在に至っているが、Prof. Gary D. Christian と本水先生との信頼関係に基づいたものと思っている。また ICAS2001 (早稲田大) で FIA Symposium が開催され、タイ・韓国・サウジアラビア等から次世代研究者が招聘され、JAFIA との交流が深められた。また 2001 年 12 月に開催された ICFIA2001 (Chiang Mai, Thai) には同伴者を含め 25 名が参加した。タイ FIA グループの代表者である Prof. Kate Grudpan とはそれ以降共同研究や学生派遣などによる学术交流が盛んに行われている。1998 年に JFIA の編集委員長を任命されたが、機関誌の B5 判から A4 判への移行、巻頭言は国内外から各 1 名、英文論文の増加など、進化するためのチームワークの良い協同作業が展開されている。2005 年に本水先生から JAFIA 委員長を引き、学生への国際会議参加支援 (タイ学生グループと JAFIA 学生グループの交換発表会の共同開催)、流れ分析の JIS 化、実用分析のための専門書の刊行などが実行された。また学生を含めたタイグループとの交流は相互発展・相互理解の場となっており、更なる展開を期待している。名古屋で開催された ICFIA2008 は国内の研究者・学生の協力で満足度の高い学会となり、発表件数はいまだにレコードとなっており、私の脳裏に焼きついている。編集委員長・委員長を長く務めさせて頂いたが、これも企業会員・正会員・各委員会委員の皆様によるご支援とご協力に負うところ大であり、学会活動の原動力は「人と人のきずな」ではないかと感じている。JAFIA 委員長に今任稔彦氏 (九州大教授)、JFIA 委員長に長岡勉氏 (大阪府立大教授) が就任されるが、学術性・国際性ともに優れた先生方なので楽しみである。最後になりますが、編集委員会及び JAFIA の事務局を長年にわたり務めて頂き、雑用から本務までソツなくこなして頂いた手嶋紀雄氏 (愛知工大教授) に深く感謝します。